

12 原爆・平和展の開催について

(厚生労働省・外務省関係)

要望内容

- 1 国による海外での原爆展の開催の拡充
- 2 広島・長崎両市が開催している海外原爆・平和展への財政支援等

(要 旨)

広島・長崎両市は、今日まで、被爆の実相を国の内外に伝えるとともに、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。

その手段の一つとして、これまで、北米、欧州、アジア、大洋州及び中南米の諸都市において原爆・平和展を開催し、大きな反響を得てきましたが、一方で、原爆被害の実相がいまだ十分に知られていないことも事実です。

核兵器をめぐるのは、核保有国による核兵器の近代化や米国とロシアによる中距離核戦力（I N F）全廃条約破棄の表明など、被爆地の願いに反する動きが見られる状況になっています。原爆・平和展の開催は、核兵器廃絶の国際世論を高め、核抑止力に依存する核保有国の政策を変えさせていく上で、有効な手段の一つであり、人類史上唯一の被爆体験を持つ我が国には、被爆の実相を伝える積極的な取組が求められています。

こうした中、本市では、平成 7 年以来、核超大国であるアメリカ、ロシアを始めとする 19 か国 49 都市において「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催しています。

国におかれては、本年度、米国において原爆展を開催するとともに、広島・長崎両市が開催する海外原爆・平和展への人的・物的連携を続けていただく予定となっていますが、今後より一層広く海外に被爆の実相を伝えるため、国による海外での原爆展の開催の拡充及び広島・長崎両市が開催している海外原爆・平和展への財政支援や連携強化について、格別の御配慮をお願いします。

(参 考)

「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」について

1 事業主体

広島市，長崎市，現地主催団体

2 事業内容

(1) 開催場所

核保有国を中心とした各国の主要都市

(2) 主な内容

ア 被爆の実相や現在の核の状況，今日の広島・長崎の姿を示す写真パ

ネル等及び市民が描いた原爆の絵の展示

イ 被爆資料の展示

ウ 被爆の実相を伝えるビデオの上映

エ 被爆体験証言の開催 など

3 これまでの開催状況

開 催 場 所	開 催 期 間	入 場 者 数	備 考
米国・ワシントンD. C. アメリカン大学	平成 7年7月8日 ～7月27日	約3,000人	
米国・ミズーリ州コロンビア市 スティーブン大学	平成 8年8月20日 ～9月1日	約2,700人	
イタリア・ウンブリア州 ペルージャ市ロッカ・パオリーナ アッシジ市アッシジ市役所	平成 9年3月1日 ～3月31日	ペルージャ市 約3万3,000人 アッシジ市 約1万人	
米国・ニューヨーク市 ニューヨーク市立大学	平成 9年9月2日 ～10月9日	約6,300人	
インド・ムンバイ市 ネールセンター	平成10年1月30日 ～2月19日	約5万4,000人	
インド・ニューデリー市 国立科学センター	平成10年4月10日 ～5月15日	約2万8,000人	
イタリア・コモ市 サン・フランセスコ	平成10年5月2日 ～5月29日	約4,300人	
米国・マサチューセッツ州 タフツ大学アートギャラリー	平成10年10月15日 ～平成11年1月3日	約6,000人	
英国・リーズ市 王立武器博物館	平成11年8月14日 ～10月3日	約1万8,000人	
カザフスタン・セミパラチンスク市 国立ニゾロフ美術館	平成11年8月22日 ～9月12日	約1万5,000人	
カザフスタン・アルマティ市 アルマティ市科学アカデミー	平成11年9月5日 ～9月15日	約3,200人	
スイス・ジュネーブ市 バッティマン・フォルスモトリス	平成11年10月23日 ～10月31日	約4,000人	

開催場所	開催期間	入場者数	備考
米国・カリフォルニア州サンタバーバラ市 ウェストモント大学	平成12年9月1日 ～9月29日	約1,500人	
オーストリア・ウィーン市 ウィーン国際センター	平成12年9月5日 ～10月30日	約1万8,500人	
米国・テネシー州マーフリーズボロ市 中部テネシー州立大学	平成12年10月7日 ～10月28日	約1,500人	
ドイツ・ハノーバー市 ハノーバー市役所	平成12年11月20日 ～12月8日	—	
ロシア・ボルゴグラード市 国立スターリングラード攻防戦パノラマ 博物館	平成13年9月8日 ～10月7日	約4万人	
米国・オハイオ州オーバリン市 ファイアーランド協会芸術ギャラリー	平成13年9月9日 ～9月21日	約1,700人	
ニュージーランド・クライストチャーチ市 カンタベリー博物館	平成14年3月16日 ～4月21日	—	
ニュージーランド・ウェリントン市 マイケル・フォーラー・センター	平成14年5月1日 ～5月12日	約6万人	
ニュージーランド・オークランド市 アオテア・センター	平成14年9月24日 ～10月17日	約2万人	
カナダ・オタワ市 ディーフェンバンカー・カナダ冷戦博物館	平成14年11月21日 ～平成15年3月17日	約4,000人	
米国・アトランタ市 エモリー大学シャトンギャラリー	平成15年9月15日 ～11月15日	約5万5,000人	
英国・コベントリー市 ハーバート美術館・博物館	平成15年10月3日 ～10月29日	約5,700人	
英国・マンチェスター市 マンチェスター市庁舎	平成16年2月3日 ～2月27日	約5,000人	
英国・リーズ市 メトロポリタン大学	平成16年5月28日 ～6月18日	約5,000人	
フランス・オバーニュ市 シャペル・デ・ペニタント・ヌワル	平成16年9月14日 ～9月29日	約2,000人	
フランス・ナント市 エスパス・コスモポリス	平成17年1月11日 ～2月27日	約6,000人	
米国・コンプトン市 コンプトン・コミュニティ・カレッジ	平成17年3月18日 ～4月22日	約3,800人	
米国・ニューヨーク市 国連本部1階ロビー等	平成17年5月2日 ～5月27日	—	日本原水爆被害者団体協議会との共催
米国・セントポール市 セントポール市庁舎	平成17年8月25日 ～9月15日	約1,200人	
フランス・パリ市 パリ市役所展示ホール	平成17年9月5日 ～10月4日	約2万200人	
カナダ・バンクーバー市 総合アトラクション施設 ストーリアム	平成18年6月9日 ～6月30日	約2,100人	
米国・ポートランド市 ポートランド州立大学 学生会館内	平成18年11月2日 ～11月29日	約3,100人	
米国・シカゴ市 デュポール大学 学生会館内	平成19年10月15日 ～平成20年1月21日	約5,000人	
ブラジル・サンパウロ市 サンパウロ州立移民記念館	平成20年8月2日 ～9月7日	約1万1,000人	
ロシア・オレンブルグ市 オレンブルグ国立大学	平成21年10月14日 ～11月1日	約5,000人	
米国・ニューヨーク市 国連本部1階ロビー	平成22年5月3日 ～6月22日	—	日本原水爆被害者団体協議会との共催
英国・ロンドン市 イベントホール「フレンズハウス」	平成22年8月2日 ～8月12日	約1,500人	
オーストラリア・ケアンズ市 タンクス芸術センター	平成23年10月14日 ～11月16日	約5,200人	
オーストラリア・メルボルン市 ガスワークス・アーツ・パーク	平成24年10月9日 ～10月28日	約2,000人	
オーストラリア・アデレード市 ハイヤー・グラウンド	平成24年11月3日 ～11月29日	約1,100人	

開催場所	開催期間	入場者数	備考
オーストラリア・ブリスベン市 ブリスベン市立スクウェアライブラリー	平成25年3月1日 ～4月30日	約13万人	
クロアチア・ザグレブ市 科学博物館	平成25年9月10日 ～10月6日	約2,000人	
クロアチア・ピオグラード・ナ・モル市 郷土博物館	平成25年10月10日 ～12月6日	525人	
スペイン・バルセロナ市 ボルン文化センター	平成27年1月13日 ～2月8日	約9万4,100人	
スペイン・グラノラズ市 グラノラズ博物館	平成27年2月11日 ～3月8日	約1,100人	
米国・ニューヨーク市 国連本部1階ロビー	平成27年4月23日 ～5月31日	—	日本原水爆被害者団体協議会との共催
米国・ワシントンD. C. アメリカン大学	平成27年6月13日 ～8月16日	約5,000人	
米国・ボストン市 ボストン大学	平成27年9月11日 ～10月18日	863人	
米国・シカゴ市 日本文化会館	平成28年10月1日 ～10月29日	約1,200人	
ハンガリー・ブダペスト市 岩の病院・核の避難所博物館	平成29年6月1日 ～10月31日	約9万人	
モンテネグロ・コトル市 コトル文化センター	平成29年11月15日 ～11月30日	約1,600人	
ハンガリー・ブダペスト市 岩の病院・核の避難所博物館	平成29年12月20日 ～平成30年8月31日	約11万3,200人	
フランス・カーン市 カーン記念館	平成30年9月20日 ～10月31日	約1万人	
ベルギー・イーペル市 イーペル博物館	平成30年11月9日 ～12月2日	約2,100人	